

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 8月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2872600404		
法人名	社会福祉法人真秀会		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	兵庫県加西市下宮木町576番地 (電話) 0790-40-0080		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009.年7月8日	評価確定日	2009年8月10日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 12人, 非常勤 10人,	常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	~2~4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,500 円	その他の経費(月額)	管理共益費 34,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	320 円	昼食 430 円
	夕食	430 円	おやつ 120 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	26 名	男性 3 名	女性 23 名
要介護1	8名	要介護2	9名
要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85 歳	最低 56 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりクリニック
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームは中国自動車道加西インターから車で10分ほどのところにあり、1階に通所介護サービス、2階から4階が入居施設になっている。開設以来法人代表者が、認知症の理解やグループホームの目的などに情報発信、啓発に力を注いできた結果、地域への理解が進みつつある。開設時からの職員が複数で継続して関わり、利用者や家族、地域住民とは馴染みの関係ができていて、さらに地域との双方向の交流を深めたいと考えている。認知症でもその人らしく楽しくなごやかに、永くホームで生活しつづけられる安心と信頼度の高いホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・職員が利用者と一緒に同じ食事をとることについて、今は検食として行っている。今後も継続して検討していく考えである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・自己評価は各フロアごとに職員が分担し、フロア長がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・地域代表者等、市職員、家族会代表者などが参加している。ホームが毎回テーマを決め、行事や現状などの報告をするホーム主導での運営になっている。ホームは、今後も双方向の意見交換ができる地域交流啓発への機会となるよう働きかけていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・定期的に開催される家族会からも要望をいただくが、普段の来訪時にフロア長が、あえて相談を持ちかけるなどして、こちらから話かける機会を持つよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域行事には定例参加している。ホーム主催の行事には、職員や利用者の知り合いからのボランティアの交流参加など少しずつ広がっている。地元小学生の訪問交流は、好評でいい機会となった。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・家庭的な環境のもとで、個々の生活歴、価値観を尊重しつつ、利用者が主体として安心して住み慣れた地域で、楽しく仲良くなごやかに生活できるよう支援することを理念にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎朝のミーティングでは、職員同士が率直に意見交換できる雰囲気づくりにつとめるとともに、利用者がホームでなごやかに過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ホーム主催の定例行事への近隣住民及ボランティアの参加交流などが徐々に広がりつつある。中でも地元の小学生の訪問交流は好評であった。		・ボランティアは利用者、職員の友人知人が口こみで参加している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は各フロアで職員が分担し、フロア長がまとめた。評価結果は全職員に申し送り、カンファレンス等で周知するようにしている。改善に向けた検討や今後の取り組みは、職員間、さらには運営推進委員会や家族会等でも、継続的に話し合っていくこととしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・毎回テーマを決め、参加者に、ホームの現況や取り組みを知ってもらうための報告が主でホーム主導の運営といえる。</p>		<p>・今後も運営推進会議の話し合いを活発にして、地域との交流をより浸透させる働きかけが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・ホームの現況報告に加えて、さらに地域交流の進め方や地域支援など積極的に働きかけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月、定期的に担当職員が個別に日々の写真を添えて事務連絡とともに近況報告している。職員の異動等は問合せに応じて知らせている。</p>		<p>・家族としては多少の遠慮もあると思われるので、職員が代わる場合はホームから進んで報告されてはどうだろうか。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族来訪時にフロア長が、あえて相談を持ちかけるなど積極的に話かけるよう努めている。定期的に家族会からの要望を聞いて検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・2~3ヶ月に1名、フロアごとに職員の異動を行っている。勤務体制のバランスを総合的に判断し、利用者との関係を見ながら慎重に行っている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修参加が可能な体制を心がけている。資格取得など参加意欲を促すために、日頃から助言や勤務体制への配慮に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2ヶ月に1回、グループホーム連絡会に参加している。運営は施設持ち回りで、職員1~2名が勉強会や見学会をとおして参加交流している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・事前に自宅訪問することもあるが、ホームに来院してもらうことで雰囲気に馴染んでもらい、希望により体験入所も行っている。信頼関係を少しずつ築きながら、出来るだけ納得してもらえるよう家族の協力も得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・共に生活するという姿勢を基本としている。一緒に生活する中で折にふれアドバイスしてもらうことも多く、さらに気持ちのうえでも温かい言葉をかけてもらうことがある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日頃の本人の様子を基に、職員個々の利用者に対する捉え方や見方を重視し、出来るだけ本人の意向に添うよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者本人の意向を聞くとともに、家族とも相談しセンター方式にまとめている。あくまでも本人本位の計画であることを念頭においている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・入退院時や治療方法の変更時だけでなく、食事のすすみ具合など、日常での職員の気付きを基に、随時カンファレンスを行い、計画を見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者は併設デイサービスで機械浴やカラオケを利用したり、母体法人の福祉タクシーを無料で利用し受診することもある。協力医の往診で、早期発見につながっている。緊急時の連携も取れている。地域の認知症の理解が少なく、今後啓発に努めることを検討している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・契約時、協力医を主治医に移行することの了解を得ている。従来のかかりつけ医を主治医として継続している利用者もいる。家族が受診に同行する時は家族に対して利用者の現状を管理者が伝えている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・家族が望み、特別な医療を必要としなければ看取りをしている。その都度、家族、医師、管理者で話し合い、方針を共有している。既に3名看取りをしたが、管理者は職員、家族と話し合っ、気持ちの負担をやわらげたり、不安を取り除くよう配慮している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・個人情報保護について職員の入職時に誓約書を取っている。虐待・拘束・人権委員会を立ち上げ、利用者の人権擁護に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・一日のスケジュールは大まかに決めているが、買い物や食事時間等一人ひとりの希望にできるだけそうようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者は食前の体操のリーダーから、調理下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等できることに参加している。献立は栄養士が立てる。バイキング、誕生日の特別メニュー等楽しみを取り入れる配慮がなされている。職員は一人のみ検食として一緒に食事している。		・職員全員が利用者と同じ食事を摂る体制の工夫ができないか。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週2回入浴日だが、希望者は随時入浴できる。入浴を拒否する人には、時間をずらして声かけしたり、手浴、足浴等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事の手伝い、洗濯物たたみ、居室の掃除等、以前から続けてきたことを継続できるよう支援している。屋上のベランダを散歩したり、可能な人は外食を兼ねて温泉に行ったり、個々の活力を引き出す配慮をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ホームの近くや屋上の散歩、買い物等へ出かけているが最近では外出の回数が減ってきた。外出は安全第一に考え、職員が1:1で関わっている。家族と外出を楽しむ利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・安全に配慮して、各フロアーの入り口を施錠している。入居時家族から承諾を得ている。管理者は内部の生活の充実に努めたいと考えている。		・職員の目の届きやすい時間帯に施錠しない工夫をしたり、ホームの前空き地で過ごす時間を作ったり、日中鍵をかけることを常態化しない方法が検討できないか。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・防災マニュアルを作成している。避難訓練は年2回消防署立会いで行っている。災害時は地区の消防団の協力も得られる。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの一日の栄養摂取量と水分摂取量を把握している。水分量の少ない人には、コーヒーや好みの飲み物を、食事が少ない人には医師と相談し、栄養補給を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有スペースには畳コーナーがあり、洗濯物をたたんだり、2~3人で腰掛けて話をしたりでき、他にも小さい空間があちこちにあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。光や温度にも配慮がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・ベッドは事業所で用意している。できるだけ馴染みのものを持ってきてもらい、その人らしい居室作りを心がけている。食器や箸も使い慣れたものを持ってきてもらうが、壊れたりしたら、誕生日のプレゼントに贈っている。</p>		

 は、重点項目。